

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会（第16回）

議事録

日時 平成29年11月27日（月）10:00～12:15

場所 名古屋城西之丸会議室

出席者 構成員

丸山 宏	名城大学教授	座長
仲 隆裕	京都造形芸術大学教授	副座長
高橋知奈津	奈良文化財研究所研究員	

オブザーバー

野口 哲也	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主任主査
野村 勘治	有限会社野村庭園研究所

事務局

観光文化交流局名古屋城総合事務所
教育委員会事務局生涯学習部文化財保護室
住宅都市局営繕部営繕課

- 議題
- 1 名古屋城二之丸庭園の平成29年度発掘調査成果について
 - 2 名古屋城二之丸庭園の平成30年度予定の発掘調査について
 - 3 名古屋城二之丸庭園の平成30年度予定の工事計画について

- 配布資料
- 資料1 平成29年度名勝名古屋城二之丸庭園発掘調査成果
資料2 平成30年度名勝名古屋城二之丸庭園発掘調査
資料3 名勝名古屋城二之丸庭園北御庭園地の東護岸と
余芳周辺の修復について
〈その他の資料〉
- ・南蛮鉄砲狭間（御築地・御練塀）について
 - ・台風21号通過後の枯池の様子と北園池石組の崩落状況
 - ・名勝追加指定報道発表・新聞記事

事務局	<p>1 開会式</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 構成員、オブザーバー、事務局の紹介</p> <p>4 今回の議事内容について</p> <p>まず資料の確認をさせていただきます。会議次第 A4 で 1 枚。会議資料として、A3 でホッチキス留めしてあるもの、ホッチキス留めしていないもの合わせて資料 1、2、3 です。座席表が A4 で 1 枚です。</p> <p>先ほどの所長の西野の話と重複しますが、11 月 17 日に文化庁文化審議会より名勝追加指定に関する答申をいただいたという新聞記事を配布いたしました。お時間のある時に、ご参照いただければと思います。各紙で取り上げていただいています。情報というか、先週の名古屋市長の定例会見でも、市長より名勝追加指定がされたことを報告させていただいています。</p> <p>本日の会議の内容です。初めに名古屋城二之丸庭園の平成 29 年度の発掘調査成果について、続いて平成 30 年度予定の発掘調査、そして来年度予定の工事計画について、ご審議いただきたいと思います。ここからの進行については、座長に一任いたします。丸山座長、よろしくお願いいたします。</p>
	<p>5 議事</p> <p>(1) 名古屋城二之丸庭園の平成 29 年度発掘調査成果について</p>
丸山座長	<p>今日は少しあたたかいかもかもしれませんが、寒い中みなさん、ありがとうございます。二之丸庭園の発掘、すでに見ていただいていると思います。画期的な状況が出てきたのは、我々にとってうれしいことです。これも市澤さんはじめ、がんばってもらったおかげです。そのへんも含めてお願いしたいです。</p> <p>それでは、名古屋城二之丸庭園の平成 29 年度発掘調査成果について、ご説明をお願いします。</p>
事務局	(資料 1 説明)
丸山座長	<p>だんだんとわかってきて、我々としてはワクワクしていますけど。ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。</p>
高橋構成員	<p>延段に空いている、ポコポコした穴の解釈ですけど、完全に廃棄されてから壊されて、上に何か、飛石などがのった時にできたものなのか、この絵図に見られる意匠としての穴なのかは、判断できませんでしたでしょうか。</p>

事務局	今は、意匠ではないかと考えています。大きくガサッと壊された痕跡ではなく、なめらかな形で遺っていますので、はめ込んだものが抜けたのではないかと考えています。
丸山座長	以前にも、こういうパターンありましたよね。
事務局	はっきりわかるのは、こういうのはなかったと思います。もう少し壊されていてというのが多かったのです。ある程度これ、形で遺っていたのです。
丸山座長	しっかり出ていますからね。
仲副座長	尾二ノ丸のほうが、消した痕跡ですよ。
事務局	そうです。
仲副座長	これからいうと、こちらのほうが後に描かれたのですか。
事務局	というふうに考えています。
仲副座長	その絵図の時代も成果になり得るということですね。園路も造られていますね。
事務局	今、絵図で考えているのが、尾二ノ丸御庭之図のもとの図面の上に描き直されていないのが、計画図や設計図という段階で。この御城御庭絵図が伺い図。上からはり込んであり、描き直してあるのが、最後竣工図かなと考えていました。竣工図なのか、ある程度時期を置いてから描き加えているのかということですが、今回の成果の中で考える必要があると思っています。
仲副座長	遺構が南側のほうへいって、延段の遺構が出てきたということは、しばらくこの状態をしていて。
事務局	機能していた可能性があります。
仲副座長	それで、その後改変ということなのでしょうかね。そのへん、土層ではつかめないですか。
事務局	ちょっとつかめない状況でした。
丸山座長	細部でこういう過程がわかるとおもしろいですね。
仲副座長	これは漆喰面、黄色いのは漆喰でしたか。
事務局	三和土です。
仲副座長	分析しましたか。

事務局	すいません。なかなかサンプルが上手くとれなくてできていないです。どこかの時点でやりたいとは思っていますが。
丸山座長	いくつかの三和土を分析されているので、時期の特定とかそういうのにも関係するものなので。
野村オブザーバー	みなさん言われましたけど、工法の過程がよくわかっておもしろいです。半乾きの状態で置物やっておいて、また細かいのをこの上にさらにやっていたのだらうと。三和土でも、その上に漆喰がしてあるとかね。非常に興味深いものが出たなと思います。
丸山座長	他になければ、また戻ってもらっても結構なので。次に移りたいと思います。平成30年度の発掘調査について、説明をお願いします。
	(2) 名古屋城二之丸庭園の平成30年度予定の発掘調査について
事務局	(資料2 説明)
丸山座長	なんとなく、石で土留めしながら高くしている感じですね。
事務局	そうですね。慶勝の遺した絵図でも、少し小山の上にあるような状況です。これの候補かなというふうに。この場所は、風信の推定位置の候補かと思っています。なかなか礎石等までとはいかないと思いますが、上がっていくための階段の痕跡があれば、おもしろいかと思っていますので、そのあたりの確認をしたいと思っています。 (資料2 説明)
丸山座長	ここは？
事務局	そこが陥没ぎみのところになります。そっちは、二之丸御殿の地盤面の確認です。
丸山座長	ここは、そうしたら桜之間の中庭みたいなところに少しかかっている可能性がありますか。
事務局	少しかかっている可能性があります。
丸山座長	ここは少し興味があります。ご説明ありましたけど、質問ご意見等をお願いします。もっと広げろとか。
仲副座長	まず基本的なところで。前もお話したと思いますが、トレンチは番号をつけて。過去にさかのぼって、つけていただきましたけど。
事務局	つけています、はい。
仲副座長	今回もここって言われたので、30年度予定地の1、2、3、4というふ

	うに、確定したら、その番号を書き込んでいただけたらと思います。
丸山座長	風信のところですけど、ここは確認してから掘り下げるのですか。どうされるのですか。これだけ全部。
事務局	基本的に風信のところに関しては、まずは笹を刈って表面観察をして、必要であれば表土を矧ぐことはあると思いますけど、ここを大きく掘削することはないです。
丸山座長	発掘って言われるから、山を崩すのかなって。
事務局	北側のトレンチのところ、多分築山の立ち上がりを確認できるので、それが本当にきちんと近世の地盤面から立ち上がっているかどうかというのを確認できたらと思っています。
仲副座長	今のところ、もうひとつわからなかった。笹を刈って、
事務局	表面をまず観察をして、
仲副座長	内砂利なんかあれを、
事務局	そうです。表土を取るところまでです。
丸山座長	まだ掘るということではない。一応、発掘って書いてあるから。そこまでではなくて。
事務局	表面を少し矧ぐくらいかなって。
仲副座長	それでも発掘ですよ。
事務局	そうですね。
丸山座長	池の南側のところ、この絵図だと、かなり深く出ているから。これが出れば、おもしろいと思いますけど。 二之丸御殿の地盤は、まだ出ていなかったですかね。
事務局	今年度の調査でそうかなっていうところは、一部出てきてはいますが。ただ、そこ1か所だけしか見ていない状況なので、それで確定していいかどうかというのが、危惧されます。
丸山座長	もう少し御殿関係のところ、今後いるかもしれないです。というのは、ここを整備した時にどの高さでやるのか、排水のこともあるし。
仲副座長	資料の2枚目のところが、御殿と重ね合わせて、平成30年度に調査しようというところで明らかにされています。南御池の東側のところは、建物とかされている、もう1か所、この2か所ですかね。どういう掘り方をされますか。

事務局	基本的にはトレンチ掘りで、土を見ながら慎重に下げていくことになると思います。
丸山座長	御殿の礎石が出てきたら、おもしろいですよね。
仲副座長	礎石が当たるか、建物と中庭の面にあたるところで、庭の面のところの最終の仕上げを、当時どうしていたか。砂をまいているか、なんかだと思しますので。そういったものが切れている箇所ですね。表土から下げる時に、おそらく1分か2分くらいの厚みだと思いますので、それを飛ばさないようにしてほしいです。同じ地面でも建物が上に建っている部分の土の仕上がり、表に出ているところは多分違うと思いますので。このあたり山だれがきているようなところでもありますので、微妙な観察になりますけど、庭面と御殿の表面を見分けることが可能かどうかということで、ぜひチャレンジしてほしいなと思います。
丸山座長	陥没は、何が原因かわからないのですか。
事務局	全然わかりません。どーんと、下がっているわけではなくて、まわりに比べてすごく下がっているなっていう程度です。ごそっと落ちているわけではないです。下に石組の遺構などがあつたりして、中が空洞になっていて落ちぎみなのは、あつたりすることなので。
丸山座長	構造的に何か抜けたのでしょうかね。
事務局	そうですね。遺構が関係しているのか、ないのかということも含めて確認ができたと思います。絵図上では何かあるところではないので。
仲副座長	絵図上では、これ、何だろう。
事務局	多分、園路になっているところですよ。
高橋構成員	囲まれているのは、何なのか。
事務局	こちらがちょっと見られなくて、切れてしまっているのですが。
仲副座長	小さすぎてわからないね。
事務局	ちょっと、それでは。
丸山座長	これでトータル、平米的には何㎡くらいですか。
事務局	200弱くらいです。
丸山副座長	桜之間の、一番下の、樹種とかいっぱい丁寧に描いてあるところだから、非常に興味があります。すごく細かいところまで絵図にのっていますから。
野村オブザーバー	一番初期の頃の中庭は、南の御庭にかかっている部分でもありますよ。

	ね。
事務局	そうです。
野村オブザーバー	そのあれが出てくるかどうか、という話ですね。
事務局	それもあります。
野村オブザーバー	1回壊しちゃっているけど。そこらあたりを想像しながらやっていただきたいと思います。
丸山座長	面積は200㎡弱ということですが、増えるかもしれませんし。掘ってみないとわからないところがありますね。もう少し追加で、トレンチを延ばすとか、それも含めて了解をしていただければと思いますけど。
野村オブザーバー	そして福島正則の痕跡が出てくるとおもしろいですよね。だいたいそのあたりだって考えられるので。
仲副座長	ここは、掘り下げて。
事務局	こちらは掘り下げることになります。基本的には近世の地盤までは、しっかり掘り下げていきます。
丸山座長	それでは工事計画、資料3について説明をお願いします。
	(3) 名古屋城二之丸庭園の平成30年度予定の工事計画について
事務局	(資料3説明)
丸山座長	これは、御城御庭絵図、幅が広いのが、そうではないですか。幅が違うだけで。
仲副座長	幅が違う。
事務局	ここは幅の描き方が違うということで、すいません修正をお願いします。余芳の北側の外周になりますが、御城御庭絵図よりも尾二ノ丸御庭之図のほうが広く描かれています。
丸山座長	尾二ノ丸は、竹垣か何か1本入っているのではないですか。Dのところは、下はなくて。幅が広いですけど、構造物があるような気がしますけど。
仲副座長	黒線の。
事務局	黒い線ですね。構造物かもしれない。

丸山座長	板塀かもしれないし、何かわかりませんがね。そんな感じがしますけど。
事務局	ちょっと黒線に、注目するということですね。 御城御庭絵図には、余芳の西側に枝折戸が3か所描かれています、尾二ノ丸は、南側の枝折戸のみ開いた状態で描かれており、その他2か所は門柱のみが描かれているという違いがあります。Eのところです。
丸山座長	柵って書いてあるところ、袖垣ではないですか。2つあるけど。どうですか。
事務局	これですね。これからは袖垣と呼んだほうがいいでしょうか。
丸山座長	ちょっと長いですけど、長いけど、ちょうど建物から出ているので、袖垣ではないかと。あとでまた、いろいろ意見を聞いていただいて。
事務局	柵は袖垣のほうが適切かもしれないということですね。
野村オブザーバー	余芳の位置自体がずれています。沓脱石だか、踏み分けのような石があるところと、距離を見ていただくと、御城御庭絵図は余芳との間が、随分距離が開いています。尾二ノ丸御庭之図は、ぐっと迫っています。位置が全然違います。似ているけど、違う。
事務局	両方の絵図の比較と、余芳の位置が少し異なっているのではないかと。
野村オブザーバー	片っぽ、寄っています。どっちかが。背面のほうは、尾二ノ丸はぐっと広がっていますし。それもどちらかに確定しないといけないですね、まず。
丸山座長	掘ってもなかなか痕跡がないから。
事務局	削れちゃっているの。
野村オブザーバー	どっちの図にするかということは、早く決めないといけないです。
事務局	その他の周辺の園地部分ですが、2つの絵図ともに飛石や延段が描かれています。そのへんでは大きな違いはありませんが、余芳北側の園路ですが、御城御庭絵図と比べて尾二ノ丸は北側に大きく湾曲した形状になっています。これがFのところですよ。
丸山座長	少し違いますね、形状が。
事務局	(資料3 説明)
丸山座長	結構細部のところまで時間をかけて、やっていきたいと思っています。

	<p>確認事項も含めて、お願いしたいと思います。</p> <p>全体の整備の中で、露出展示をするところと、覆土をするところ、余芳のところとか、そういうところが出てくると思います。全部を覆土するわけにはいかないから。そのへんの全体の庭の中でどうするのか。それは排水とも関わってくるので。現況の排水があるところ、どういうように排水されているのか。後で写真を見せてもらう、排水するところもある。そのあたりが、全体の中でもいるのかなと。</p> <p>もう1点。飛石は置いていかなければいけないと思いますが、材料は、今園内にあるもので、将来的に外さなければいけない石材が結構あると思います。その石材を使ったらいいと思います。どういうものがあるかという、石材調査みたいなものが、整備をする前にいると思います。今、御茶屋さんのまわりにはいっぱいあってありますけどね。あれは結局、撤去するというかね。それを利用しないといけないと思いますけど。</p> <p>それと余芳の筒型の手水は、所有者さんのところにありましたよね。あれがどこに行ったのか、わからないけど、まだありますか。</p>
事務局	<p>私が聞いたのは、そのまま新しい建物の、中庭の一部みたいなところに置いているという話は聞きました。</p>
丸山座長	<p>それは、くれというわけには、なかなかいかない。それは重要なので、レプリカとか、西村金造さんところでやってもらって、レプリカ造ってもらおうように。そういうこともいるのかなと、少し思っています。細かいことですけどね。細かいことではないですけど。余芳の復元という意味では、結構重要かと思えます。</p>
高橋構成員	<p>全体のことでなんですけども、根拠資料で発掘と絵図があります。ここは、近代に削平されている範囲が多い場所ではあると思いますけども。現況というのも重要というか、一つの材料というか。それとの関係の中で、整備方針は決まってくると思いますので、きちんとフローの中に、現況とどういうふうにしり合わせていくのかという流れを書き込んでおかないと。完全な発掘庭園みたいな、これだけみると感じになってしまうので。そのあたりの整理が必要なかと思いました。</p> <p>設計される時も、現況ある石を据え置くものと、外さざるを得ないものという判断が出てくると思いますけど。そういう整備と関係があると思います。</p>
丸山座長	<p>整備をするにあたって、現況を考えないと仕様がなくなってしまうので、特に先ほど言った覆土する、しないで、だいたい現況と変わってくると思うので、そのあたりも検討してください。</p>
仲副座長	<p>2ページ、3ページの根拠資料の解析のところですけども、随分丹念に読み込んで、整理されていると思います。庭園要素の中で、2ページの表の中で、中島、洲浜、沢飛び石とあります。3ページのところには、そのように書いてありますけども、書いていないものがあります。これも入れておいてほしいなと思います。石組護岸、灯籠。植栽は別途読み込まないといけないと思いますけど。</p>

丸山座長	植栽は外しておいてもらっていいです。また次の段階なので。骨格を作っていかないといけないので、今から植栽のことも入れるとややこしいので。先ほど少し言われましたけど。
仲副座長	②番が池泉になっていますのでね。分類の②がどういうレベルの分類かわかりませんが。植栽はちょっと外して、ゾーンの中の骨格の部分の検討と、構造物、植栽を別にしておいたらいいかと思います。
丸山座長	洲浜はどうしましょう。洲浜って書いてあるけど、洲浜が意外とぼつちり遺っています。三和土のところに石を置いていますよね。
事務局	少しわかりづらいですけど、8ページに写真が付けてあります。写真が6枚並んでいるうちの右上になります。こんな感じになります。
丸山座長	この二之丸庭園は、今まで我々があちこちで見えてきた洲浜と考え方を変えなければいけないですね。いろいろな意味で。亀の遺構にはここには書いていないですけど、表にはないですけど。こういう意匠を、出していかないといけないですから。
仲副座長	これ、年代観はどうでしたか。
事務局	基本的には文政期の時の整備でいいのではないかと、というふうに考えています。
丸山座長	今回の整備には入っていませんけど、滝が流れて、その時の三和土でトンと落として、そのまま下。今の感覚だとモルタルで、みたいな感じですけど。そういう三和土が出てきているでしょう。滝のところ。そういう一貫したデザインだと思いますけど。二之丸庭園の、今までにない特徴を出していかなければ、復元していかなければいけないと思います。ここだと覆土ができないので、露出して修復してやらなければいけない。問題は、その材料と手法です。三州三和土が有名だから、職人さんはいますけど。そういう職人さんに1回、どこかで試しで造ってもらって。そういうことがいると。
仲副座長	試験施工はいるでしょうね。
丸山座長	これは再来年度くらいになるかもしれないですけど、このへんも考えながらやっていかなければだめだと思います。 順番に言ってもらったらいいですけど、今は東護岸のところへんで、橋は切橋ですね。そういうところの復元。何間くらいになるのですか。こちら側の図面だと。ディテールはわからないですけど、大体こんな感じ。何分の1ですか。200分の1、2m弱くらい、2mくらいですか。長さは、 上がっているところは切石ですよ。
事務局	多分。

丸山座長	下がっている遺構というか、池から言えば上がっている。下がっているのが1段、2段、3段ですか。橋だけで言えば、太鼓橋の発掘では、柱4本ですけど。発掘で出てきたのを踏襲しないと、おかしいですよ。わざわざ、6本にするのも。
事務局	絵図だと1か所3本なので、9本だと思います。
丸山座長	9本ですか。
事務局	絵図だと、左右と真ん中くらいです。
丸山座長	池に柱があるのは6本だということですね。
高橋構成員	これが、その柱、3本柱ですね。
丸山座長	3本柱ですか。でも、出てきたのは2本。
事務局	2本です。
丸山座長	そうか、3、3、3で。
事務局	2、2で4本だけ長くすれば。
丸山座長	こっち欄干ですね。アップでわかりやすいですね。これ復元したらいいですね。これだけあったら柱感が出ているのがあっても。これ復元したいですね。
野村オブザーバー	<p>微妙に周辺の景観が、尾二ノ丸と違います。こちらのほうがいいです。石組なども、わかりやすいのは御城御庭絵図のほうがわかりやすいです。それをどう解釈するかということです。飛石も非常にわかりやすく描いてあるというか、ある意味では設計図のように描いてある。我々が書くのはどちらかという、そういう形になります。その、いわゆる御城御庭絵図。今度実測してみると、尾二ノ丸之図です。チープな石組だったり、飛石だったりとかいうので、そこらあたりがあれですが。そこもそうですけども、この石組を本当に読み込むことが必要だと思います。例えば、御城御庭絵図の場合は反り橋のところ、両側が橋ばさみのような感じで岩組を施しています。いわゆる荒々しい感を強調するように描いています。そういう石を選ばなければならないです。片っぼのせて、片っぼの石がなかったりとかします。理想としては、御城御庭絵図のほうがかっこいいです。全体的に見ていると、石組もメリハリがありますし。ほぼそれに似たような感じだけで違います。</p> <p>もうひとつ言えるのが、平面的にごろごろって感じで石を、計画では描かれていますけども。やはり絵のほうが基本です。実際に私自身が施工する段階でも、こういう絵を描いています。施工する段階で。こういう絵になるように、石を配置しているのです。結果的に拾うためには、平面的な図を作りますけど、一番大事なものは絵です。この絵図を、こちの方向には、ビューポイントに合わせて描いてあります。逆に言うと、平面図よりもはるかにこの図のほうが再現しやすいです。この絵</p>

	<p>図をとにかく、どこまでも読み解くことが大事だと思います。小さな石をちょっと据えてあったりしますが、多分大きな石に少し添える石。もしくは、結果的にできあがったものにしても、添えなければ、どうしてもしょうがなかった石があったりします。そういうふうには、よく描かれていますので、徹底的にそれを読み込むことが大事ですね。</p>
丸山座長	<p>野村さんがおっしゃったのですが、結果的には、やる時には来ていただいて。権現山を復元しましたが、現場で修正してもらわないといけませんので。役所としては、ちゃんと平面図がないと積算できないから、一応かいていただいて。</p>
野村オブザーバー	<p>部分的にはあれですけど、現場合わせですよ。昔でもそうだったでしょうし。</p>
丸山座長	<p>現場合わせということが基本です。事業的には、石が必要であれば、個数を買わなければいけないです。何個あるのかとか。大きさとか、積算するという意味ではいると思います。でも実際に、現場でどう置いていくかは、別の問題です。その時はまたご協力していただきたいと思います。</p>
野村オブザーバー	<p>余芳から見ますと、西側に向いているところは、岩組みの中に手水鉢があるという、岩清水を組むような風情というか。それが、つくばいの基本形ですけど。うまく組んでいるなっていうのが、わかります。真ん中のところが少し低くなって、池のほうへすり合わせていくような感じに見えています。両側が浮き上がっている。うまいなと思います。それも表現すればいいと思います。ただ並べるだけでなく、景色もそうやってつくってやればいいです。</p>
丸山座長	<p>余芳の手水のところで、30 cmでいいかなと思いましたが、場所をやると、手水のところに海があるので、もう少し高くしなければいけない。新しくやる時にはしんどいかと思います。建物はいいけど。手水を根拠に、その場所にやる場合だと、ひよっとしたら60 cmくらい上げないと下の遺構が。そのへん少し検討しなければいけないかと思います。</p>
野村オブザーバー	<p>ここに、雪見灯籠を置いています。雪見灯籠は低いです。スルッと滑り下りるような、降りつくばいの感じだったかもしれないですね。いろいろ想像をかき立てられます。これは、一番いいポイントに、余芳を置いています。この軸線で見るところは。</p>
丸山座長	<p>橋も見えますからね。</p>
野村オブザーバー	<p>今度造られたら、また見どころになるはずですよ。</p>
丸山座長	<p>試験施工は、さっきも少し出しましたが、いくつかやってもらえないといけないと思います。例えば、延段のところで、絵図だと三和土の中に、石があります。職人さんも含めて、そういう事情を考えないといけないと思います。前に権現山の上にやってもらったのですが、ああい</p>

	う三和土の感じでいくのが。
野村オブザーバー	これなんかは、大きな石が配ってあって、間はあられこぼしになっているかもしれない。多分そうだと思います。三和土のまんまということはないと思います。
丸山座長	難しいのは、洲浜というところは、三和土があってそこに埋めている。あれそのままですね。我々も、今までの常識では考えられないから。
野村オブザーバー	あれはね。それはあります。
丸山座長	そこが気になりました。
野村オブザーバー	延段のように普段歩くところは、そういうようなことがしてあるのではないかと思いますけど。 結構、丁寧に、測量というか、写したのですよね。必死で。
丸山座長	来年、再来年くらいに、材料のことを考えないといけないです。さっきちょっと言いましたけど、それでは足りない。そうすると、どこから購入するかとか。揖斐にするのか、いろいろ。
野村オブザーバー	実際にこの時代、揖斐の石は入っていませんから。
丸山座長	ないですけど、今、
野村オブザーバー	やらないといけないです。どこのあたりで落としどころにするかです。
丸山座長	城内広いところに、いっぱい石、景石というか、捨石みたいに置いてあるので。あれを少しもらってきたら、いけないのかなという気がしながら、いつも歩いていますけど。変なところに、いい石が置いてあるし。全然、死んでいる石が。
事務局	その裏とかも結構ありますからね。
丸山座長	そうです。そのへんとか。
仲副座長	それは拾い上げて、史跡のほうの委員会で確認しないといけないです。確認をとっていただいて。そういった意味でも、部材調査になります。防ぐというかたちでも。
丸山座長	いけないとは、言わないと思いますけど。一応確認して、図面をとって、その場所から移したという証拠を残せということです。
事務局	そうですね。確実に当初からそこにあったものではないということが証明できれば、問題ないかと思います。

丸山座長	いくつか土留めの石も、今後権現山の裾にはいるので。そのまま芝生だけで抑えていたら、この庭の本質的な価値が出ないと思います。
野村オブザーバー	あくまで庭に戻すのですから。遺跡庭園ではないですから。前からよくお話が出ていましたけど、古材バンクではないですけど、石材バンクを作って、解体する時にもらえるというか。運ぶのが大変かもしれませんけど。そうでもしないと、古い石が集まってこないというか。全部が全部、それではできないでしょうけど。そういったものをある程度散りばめることによって、昔の風情が復元できていくと思いますので。私の周辺でも家を解体する、しかし運ぶことができない、埋めちゃうとか、捨てちゃうとかという話になっています。それは戦前のお庭が多いので、ほぼこのあたりで使われたような材料があります。そういうのをもっと公表して、「ください」って言っちゃったほうがいいのではないですか。そして、捨てるのを困っているのだったら名古屋市に持っていけばいいのだっていうのが生まれると、一番いいです。
丸山座長	灯籠の件で、そういう話が前に出たので。聞くところによると、稲沢の業者相手の植木市で、時々灯籠が出ていると。それは全国から来た、ひょっとしたら京都から来て、それを買って持って帰っている人もいるみたいです。そういう話をちらっと聞いたのですけれども。市民を巻き込むのは、市民に対して、灯籠とかの、ある程度チェックしないといけないと思います。そういう寄贈みたいなのも考えたほうが、おもしろいかもしれないですね。そうすると結構出てきて、自分たちの家にあったのが、家はなくなったけど名古屋城で使われていると。これは先の話で、先でもないね。結構急ぐ話かもしれません。
仲副座長	すべて受け入れるわけにはいかないでしょうけど。
丸山座長	選んで、これはいいけど、これはだめだと。
野村オブザーバー	でもね、どこでも使えますよ。庭石は。灯籠はちょっとまずいですけど。
丸山座長	庭石は使えますけどね。ざっくりでいいから、どれくらい足りないのか。何トン足りないのかという話は、今後実施設計を進めていくうえでいると思います。 灯籠はね、変ななんか今、
野村オブザーバー	ここにある灯籠、絵だけで判断すると、結構品のいい灯籠が立っています。
丸山座長	でも130あります。全部は造ることができないから。
野村オブザーバー	あんまり野暮な形をしていないです。
丸山座長	灯籠も今後どれくらい、どこに据えるかということを検討しないといけないですけど。灯籠は後でも据えられるので。一気にできるというか、

	<p>むしろ大きくできていった中で、ここに灯籠が欲しいというふうになれば、西村さんのところにいったら高いから。どっかの、代替わりの時に整理されるところに譲ってもらって。前に名前は書かないけど、灯籠寄贈者の一覧なんかをネットで流しておけばいいので。そういうやり方もあると思いますので。</p>
野村オブザーバー	<p>これだけありましたから、ここから出て行った灯籠もあると思いますよ。</p>
丸山座長	<p>1基もないということは、130の灯籠が全部捨てられたのです。石もね。</p>
野村オブザーバー	<p>これは解体できるわけですから、売れるわけです。</p>
高橋構成員	<p>今までの全体の整備の流れが把握しきれていない部分もありますけども、修復方針の案の表になっているところです。基本的な考え方の1番目のところで、東護岸と余芳周辺の修復は、発掘調査成果に基づき御城御庭絵図に描かれている庭園を参考にして整備する、と書いてあります。これは、東護岸と余芳周辺以外も、ここ全体の大きな整備方針ということで、ここだけの話ではないのではないというのがひとつ思いました。</p> <p>分類①で、だいたい大きく3か所エリアが分かれていますけども、余芳のところと東護岸では整備の仕方が大きく違ってくるのではないかという印象があります。修復方針のところでも、今のところ復元整備というのと、復元と整備といういい方の、2、3種類くらいに分けられていますけども、実際は東護岸のほうは露出がメインになってくる部分が多いのだろうというところなんです。露出と現況の整合の中で決めていくところ。余芳のほうは、すでに削平されている部分で、かつ建物が遺っているという、積極的に復元していくための材料があるというエリアになってくるのかと思います。そういうエリアごとの、どういうところに重点を置いて整備をしていくのかという方針が、はっきり書かれていると、判断する時にし易くなるのかと思います。全体の中で、余芳が遺っているといのは、すごい大きなことです。多分将来的に、他の建物があまりない中で建物があるということで、よりそのまわりについて積極的に絵図を基に設計していくことができるエリアになるのではないかと気がしています。エリアごとの方針というのが、書かれているといいのではないかと思います。これまでの流れとして、どんな感じなのでしょう。</p>
丸山座長	<p>露出展示と覆土で保護するという、二之丸庭園は、今一応そういう方向にはありますけど、全体が少し見えにくいんです。例えば余芳と書いてあるけど、どこまで覆土するのかは、建物の周辺だと思います。エリアと言っても、ざっくり書いてあるけども、そうではない場合も出てきていると思うので。それは特に建築関係のところでは、重要だと思いますけど。</p>
仲副座長	<p>一連の流れの中でやってきていますが、再確認の意味で、基本設計で</p>

	<p>書いた方針を掲げつつ、それに準じていくところと、もしかしたらその時の考え方を見直さないといけない場面があるかもしれないので。その点が、今までの流れの中でおさまっているかどうかというのをチェックする意味でも、資料の中で基本設計なり、構想なり、ひとつの考え方を示しながら資料を作っていただけると助かります。</p> <p>高橋さんがおっしゃたように、今後、ここから全体を整備していく時に、ここだけ特別な方針を出して整合性があわないといけない。先ほど座長からも、排水の考え方ということもありました。特に北側の園路のすり付けの関係が、随分検討したところです。今回の余芳周辺の盛り土の厚さのところで、前回までに検討した北側の園路の整備の地盤面と整合性がとれているかどうかという。そのチェックができていくかどうかというところについても、気になっています。</p>
丸山座長	<p>今言われた中だと、余芳を上げると、それから池のほうに来るところで、御庭絵図によると手水があり、護岸、石組があって、それから下って行って、御池のほうの、ここに描いてある洲浜に下りる。この絵の中では、それがちょっと見えてこないというか。高まりはありますが、それは石組してあるだけなのか。先ほどから出ている余芳から池に向かって見る風景が、絵図の関係としてはちょっと違々と。尾二ノ丸ではちょっとずれたところに手水があって、六角の手水かな。こっちの絵図だと、こっちも一緒ですね。ここは四角と。余芳から向かった時の風景をつくらないといけないので。この図面はあくまでも積算用として考えていいと思います。その空間はちょっとなんかいるのかと思います。今の状況だと、石がずっと並んでいる、石組があるだけですかね。さっき言ったように、手水や灯籠がいっぱいありますが、復元というか、持ってくるべき重要な石造品のところと、ここは抜いても、130もあつたら灯籠だらけになるので。それは無理だろうし、それだけ市民に言っても出てこないとは思いますが。余芳まわりとか、風信まわりは、ポイントとして重要なところなので。そのへんの石造の、すぐにはできないですけど、図面的にはほしいと思います。</p>
仲副座長	<p>さっき座長もおっしゃったのですけれども、覆土は30cmですか。</p>
丸山座長	<p>基本は。余芳のところは、手水の上に据えたとしたら30cmでは足りないのでは、60cmくらいいるのではないかと思います。最低でも。でもそれは現場でやってみて、もう少し上げなければいけない場合と、池とのすり合わせによって、地形をうまくやればそんなに苦労はしないと思います。</p>
仲副座長	<p>それもありますけど。別途、余芳の復元の設定はあるとは思いますが、今後の利活用の関係の時に、視点場として有効という話があったので、利用上は中に入ってもらおうというのを前提にしているということですか。</p>
事務局	<p>入ってもらおうと建築基準法の建物になるものですから、消火設備とかいろいろつきます。それとの兼ね合いを、今後私たちももう少し調査していきたいと思っています。入らなければ、完璧な復元ができると思えますけども。</p>

丸山座長	文化財の適応外というのがありますけども。細かいことを言いましたら、消防法とか、地震とか、耐震とかいうことになりますけれども。そういうもので、がちがちになるようであれば、見てもらうだけになりますね。
仲副座長	その際はどこまで立ち入って、縁に座るところまでいいのか、沓脱石のところまでしておくのか。
丸山座長	それと、これまた全体の大きな話で、ここの庭園自体をある程度囲うのか。私は、ある程度囲って、今後の二之丸御殿との関係もありますけど、差別化というか、一旦城内に入ってもらった後で、ここの庭園は囲うことによって質を変えたほうがいいのか。そのまま入って、今はズブズブ、と行けますけど、今後整備した時に、練塀の話もあるし、いろいろなところで、ここの庭園は50円でもいいから、取ってもいいと思います。50円でも100円でも全然違うので。そうなってくると、ここの展示の仕方がフリーだと、囲わないといけなとかいろいろ出てくるので。余芳をね。
野村オブザーバー	そういうことですね。
丸山座長	そのへんもちょっと考えないといけないです。
野村オブザーバー	こういう文化財的なものができてしまうとね。
丸山座長	文化庁なんかでも、一応ここは囲われているということで。そういうこともいいのではないかと思います。
事務局	全体は囲われていますけど、その部分が囲われている、囲われていないで、文化庁の判断はやっぱり。
丸山座長	そんなややこしいことは言わないですけど。こちらの管理の立場として、今は門で入場料を払って、あと観るのは自由でしょう。天守閣も含めて。何段階か、整備の状況によって、共通券というものもあるけど。庭は庭で、ここは囲ったほうがいいのかと思います。そうしないと、フリーで入られるから、もちろんお金を払っているからいいですけど、意識が違います。
事務局	もう1ランク意識が上がるということですね。
丸山座長	そんなことは、他でもやっていますし。天守の話もありますけど。今までみたいに、ゲートで払ってあとは自由に行けるというのではないと思います。今度、そういうことを整備していったら、区画ごとに、共通券でやるのか。園内だけうろつくではない。観光客だったら、その分ランクをちょっと。整備室として、そういう料金のことも考えてもらわないといけないと思います。 ここはぜひ、ある程度囲って。例えば朝9時から開くのならば、庭は10時から開けるとか。いじわるするわけではないですよ。管理という

	か、セキュリティーから、例えば4時にその庭だけは終わるとか。そういうやり方も、今後考えていかなければいけないと思います。
事務局	そうですね。確かに、夜間に開けることが今もありますけど、今後増えるとする、庭の部分はどうするのかという。今だと見せられる状態までになっていないので、夜は完全にシャットアウトして。そういう意味では、整備されてくると、夜、悪さされないようにとか、そういうことは確かに考えないといけないかもしれないです。
丸山座長	今囲ったら、問題ありますよね。今後、ここがずっと整備されていったら、名古屋城全体の中で、二之丸庭園の名勝だということを、もう少し売り出すというか。
事務局	お城、いわゆる天守閣とは少し違った魅力としての売り出しは、やはりしたいなとは思っていますね。
丸山座長	だいぶ壮大な話になりますけど。いくらにするかということも考えていかないといけない。
仲副座長	それは、今後のメンテナンスのことを考えるうえでも、休園日のない名勝庭園だとなかなか手入れをする時間がとれなかったりします。開園時間をずらすって、思ったんですけど。例えば10時までは必ず、毎朝手入れをして準備して開けると。4時に閉めたら、暗くなるまでの間にもう一度掃除をして、植物の手入れをしてということだったら、良好に保てるかもしれませんね。管理・運営のことも考えていただいたら。
丸山座長	管理のほうは、昼間に職人さんに法被を着てもらって作業してもらった方がいいと思っています。見せるんです、わざと。庭の手入れはこういうものだ。そのレベルの植木屋さんに入ってもらって。結構、市民は興味があります。ほかでも結構やられているところもあります。逆に手入れをしないといけないのだという、日本庭園は。ぜひやったらおもしろいと思います。それと先の先ですけど、ここは菊とか、園芸、いろいろな鉢物が並べてあります。植木屋で。そういうものの展示も、コラボというか、名古屋に園芸家、趣味の人がいますから、そういう団体に展示してもらっていいものを。今やっている菊花展の、もっといいところに入ってもらって、より質を上げていけばいいと。ただうろつくのではなくて、そういう人が入ってもらおうとおもしろいかと思います。だいぶ先ですけど。その頃生きているかどうかはわかりませんが。そういうのも含めて、整備だけではなくて、将来の管理。今、仲先生が言われたことも念頭においてください。10億くらいくれたらいいですけど。市長になんとかうまいこと言って、10億くらいでできますよって。もうすこし多めに言っておいたほうがいいかもしれないです。
事務局	そうですね。エリアも広がりましたから。
丸山座長	エリアも広がったら、それなりにどうするのか。次の段階ですね。向こうが告示されてからの話ですけども。

仲副座長	前回でも、名勝の追加指定を念頭において全体計画を考えてきたと思いますけども。正式に追加指定になった段階で、保存活用計画は作っておかないといけません。
丸山座長	作るというか、改訂版ですよ。
仲副座長	改訂版ですね。その中で、先ほど高橋さんが言われたように、現況で修理するところと、発掘の遺構を露出しながら、遺構を若干出していくところと、遺構は復元して整備していくところ。ある程度の方針と、だいたいのゾーニングが示せればいいと思います。
丸山座長	年内にもう1回、やりますか。そしたら、その他ということで、事務局にお返ししたいのですけれども。
	(4) その他
事務局	(資料の南蛮鉄砲狭間の説明)
丸山座長	この計画は、年次が書いていないですけど、どういう計画をたてられているのですか。
事務局	予算が必要になってきますので、31年度以降かと思います。 検討の方針というところを、こちらで案を出したところで協議していただいて、実際に必要な委託等も、31年度以降で進めていくことになるかと思います。
丸山座長	今、60 cmくらい埋まっていますよね。排水計画と、練塀の話と。覆いをやって見せるのは、あまり感心しないです。十分に強度を有している場所と、練塀全体の北側について全部調査をしないといけないと思います。それがないと、全部が全部いいとは思っていないので。今、かなり風化しているけど、それを見せるということも、ひとつの重要な文化財の展示の仕方だと思います。それ以外のところだと、前の擬木が邪魔です。ああいうものをどうするのかとか、そのあたりが検討事項だと思います。先ほど掲げているように、見た目が異なる箇所の追加試験調査、わかりにくいのですけれども、そういうことですよ。劣化の激しいところと、
事務局	劣化なのか、成分が違うのか。あとは工法とかの可能性もあるのかと、そのへんは何とも言えません。
丸山座長	練塀の試験施工は、ぜひやってもらいたいです。他の所でも。やる時に、ここは市民に公開してほしいです。これを見せると、こういうことでやっている。そういうことをアピールしていきたいと思っています。新聞の方、もっと二之丸庭園の宣伝をしてください。天守閣だけではなくて、二之丸のほうがすごいのだと。日本にいろいろ城郭の庭園がありますけど、名古屋城は非常に特徴的です。今後、特別名勝になるか

	<p>もしれない。すごいです。そういうこともあるので、練塀は重要なところですよ。これは30年度とか、順にやっていただいて。こういうことをやる職人さんはいるのだろうか。</p>
仲副座長	<p>そこですね。</p>
丸山座長	<p>服部長七さんみたいな人がいたらいいけど。三和土とか、こういう関係だと左官屋さんなので。水漏れとか、池のほうも関係してくるので。そういう職人さんの調査みたいなものも、ここに含めてもらったらいいと思います。職人がいなくなったらできないですから。 液体ガラス処理って、高橋さん、知っていますか。</p>
高橋構成員	<p>なんでしょう、って思いました。液体ガラスってなんだろう。私も知らないですけど。</p>
丸山座長	<p>どういうものですか。</p>
事務局	<p>吹付で劣化を防ぐものです。</p>
丸山座長	<p>それ、今も売っていますよね。シュッター、とするもの。でもあれ、屋内ですよ。</p>
高橋構成員	<p>文化財の使用例があるものですか。</p>
事務局	<p>まだ聞いたことはないですけども。汎用で今使われていますので、それが可能かどうかということも含めてやっていきたいです。劣化を防ぐとか、落書きもされないとか。</p>
高橋構成員	<p>このプリントの整理を、もう少しがんばってほしいですけど。結果で十分な強度を有しているけども、亀裂の課題があるということで、矛盾したようなことが重なっている。当座は十分な強度があるという意味なのか。永久的に十分な強度があるという意味なのか。ものとしては強度があるけれども、剥離や、ばらばらになってしまう可能性があるという意味なのか。結果と課題、報告書を読めばわかると思いますけど。結果と課題のところをもう少し整理していただいて、今、先生がおっしゃられたような、調査をベースにするということで、そのあとの工法はそこから導かれる。物理的なものになるのか、化学的なものになるのか、現況の調査から導いていくということで。用いるものについては、まだ早いのではないかと気がします。材料については。</p>
丸山座長	<p>こう書かれると、何もしないでもいいように思うから。現状において、強度を有している箇所もある。全体の、練塀のところは調査もしていないから、あまり結果を書くのはしんどいと思います。 市澤さん、言いたいのはわかるけども。擬木の話とか、掘り下げて見せるのかとか、いろいろな問題があるので、すぐにはできないと思いますけど。とりあえず、全体の調査みたいなものを作ってもらいたいです。液体ガラス処理が、どなたか知っていらっしゃいますか。事例がないと</p>

	何もわからないです。
事務局	文化財で、まだ調べきれていません。
事務局	液体ガラスのことですが、文化財では広島原爆ドームの保全に、昭和43年頃使っています。ただ、それが劣化しまして、
丸山座長	劣化した。建築の中で使ったのですね。
事務局	レンガとガラスの接着があまり良くなって。去年までにやった修復では、モルタルに変更しています。液体ガラスは、かなりいろいろなところでは使われています。確か奈良も、平城宮遺跡の展示場のところでも、液体ガラスでやっているところもあります。
高橋構成員	どれですか？液体ガラス、初めて聞いた言葉なので。
丸山座長	見ておいてください。
高橋構成員	はい。
事務局	有機物と無機物ですので、遊離してしまいます。練塀にいいかどうかは、はっきりしませんけどね。
丸山座長	いずれにしても、試験施工してもらって。
丸山座長	そうしたら、もうひとつのほうを。
事務局	(資料の台風21号通過後の枯池の説明)
丸山座長	文化庁には、毀損届みたいなのは出してもらっていますか。勝手に直したらいけないので。それで、こういう計画でやるということをやってもらわないと。国の名勝なので、そういうところは非常に重要なので。そのへんは注意してもらいたいです。
事務局	その写真がこれです。裏面をご覧ください。同じく台風21号の時に、南の池に水がちょうど張られた状況にありました。その時の写真を撮ったものが、こちらです。これを見ますと、かつて水が張られていたとすれば、こんな景色に近いかなと。
野村オブザーバー	なかなかいいですね。
丸山座長	これは、伊藤さんは見ているけど、我々は見えないので。
事務局	総雨量210mm、この日降っていますので、かなり溜まりました。
丸山座長	総合事務所の方は、みなさんは見られているわけですね。修復とか、工法とか、そういうこともしっかり書いてもらわないとい

	けないので。補助金がでますか。この程度はでないですか。向こうの調査官と調整してもらって。
仲副座長	これは護岸石が落ちたわけですね。この部分の土層などは、
事務局	見ましたけど、基本的には近世の土で盛り上げられている印象です。
仲副座長	据付けの痕跡は。
事務局	わかりません。そこまですべちゃったという感じです。
丸山座長	戻すにあたって、どう土のところをはがね土とか、代用してやらなければいけないかもしれない。そういう工法みたいなものも。
仲副座長	漆喰がまわっていない部分ですよ。
事務局	三和土がまわっていますけど、割れたところが、パタンと倒れた感じの印象です。
仲副座長	三和土ごと剥がれた。
事務局	三和土ごと割れちゃっている感じです。水位が、今回、思っていた以上に上がったので裏の土まで入って、引いていく時に吸い出してしまって、一緒にパタンと、きたということです。
丸山座長	三和土の一部成分で。ここはもう、調査をされているのですか。
事務局	そうです。
野村オブザーバー	中のほうに、四達堂の跡でも出てきませんか。
事務局	ここでは、ちょっとわかりませんが。上をやると、何かあるのではないかなと思いますけども。
野村オブザーバー	触ってみたいところですね。
仲副座長	復旧前に破損したところなので、トレンチを
野村オブザーバー	ついでにやるかですね。
丸山座長	これも、なんか落ちそうな、危なそうな石ですね。
仲副座長	今は何か、仮復旧か何かされているのですか。
事務局	基本的には、あまり触らずにやっています。まわりで崩れそうなどころに関しては、土嚢を積んで対応をしている状況です。今まで土があって押しえられていたところが、どうしても弱いなという印象があります。

丸山座長	文化庁ともしっかりやっていただいて。これは文化財のほうでやってもらってもらえますか。現場みてもらえますね。
文化財保護室	もう1回確認します。
丸山座長	県にあげてもらって、
文化財保護室	直接いけます。
丸山座長	帰りに見てください。
事務局	<p>本日、ご議論いただきありがとうございました。今回いただきました議論を基に、来年度の発掘調査、工事発注に向けて業務を進めていきたいと思えます。今後ともご指導、ご助言をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>次回の庭園部会の開催日ですが、来年の3月2日金曜日の10時から、同じくこの場所で開催したいと思っています。皆様には、ご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>